

# 平成16年度 事業報告

財団法人 日本セーリング連盟

## <全 般>

16年度事業全般については委員会中心の活動であるが、特記したい事項は次のとおりである。

### 1. アテネオリンピック

8月ギリシャで開催されたアテネオリンピックに於いて、見事男子470級が銅メダル獲得という快挙でセーリング関係者に夢と感動を与えた。この活躍によりセーリング人口増大を図りたい。

### 2. 埼玉国体

谷中湖という内陸の小さな人口湖で行われた国体で、開催までは心配ごとが多く、大変不安であったが結果は国体史上最高の数万人の観客を集め大成功裏に幕を閉じた。観客席のあるフィニッシュラインをアテネ仕様の艇がトップフィニッシュしたときの盛り上がりは忘れられない。

### 3. メンバー登録システム化

JSAFメンバー増大を目的に、日時をかけてIT委員会中心に取り組んだ本事業が大筋完成し、17年度より実用化されることとなった。システム全般については未整備な所は残るが、目的達成に寄与するよう期待したい。

### 4. 環境問題プロジェクト

年度半ばに海、浜等の浄化等を目的に本プロジェクトを立ち上げた。17年度よりキャンペーンを実施し、併せてこの目的に賛同いただける艇種別協会には16年度途絶えた全日本選手権大会に対する補助金を復活する計画である。

## 総務事業(本社機構)

(組織図にはこの名称は無い、分類のための仮名)

### 総務委員会

(委員長：中山明 副：平賀威・鈴木修)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1、未処理諸規程の整備			
1) 理事選出方法や任期などの規則化	4月、7月	内部	1) 役員選出基準及び理事選出方法を改定し運用細部の理事会確認が出来た。同時に役員選挙規則を制定し運用した。
2) 評議員選出方法を規則化する。	7月	内部	
3) 諸規程の整備統合を進める。	通年	内部	2) 評議員選出規程を作成したが、外部評議員資格などを継続審議とした。
(レース委員会、ルール委員会等が別に定めた規則規程の統合、公告規程の事務上の整備)	7月、9月 11月、1月 7月	内部 内部 内部 日本ｽｰｯ仲裁機構	3) 公告規程、NJ, Nu規程をルール委員会と事務上の整理を行った。 4) 公益法人に相応しい団体活動の指針となる連盟行動規範を作成した。 5) 日本スポーツ仲裁機構への事案付託手続きを行った。
2、加盟団体、特別加盟団体の義務と権利内容の明確化。	9月	内部	* 理事会の検討チームが編成され、継続審議。特別加盟団体の加盟承認は6団体。休眠団体届は1団体。
会員管理方法をIT委員会と協調して成案に努める。	2月	内部	* IT委員会との協調で、会員登録システムの運用を新年度からスタートする。
3、艇種別クラス協会の艇、セール等、MNAとしての基本的管理内容の検討	通年	内部	* 継続審議
4、会員及び団体の権利と義務について	9月、1月	内部	* RRS88条のレス主催団体に関する問題をレス委員会と連携して暫定処置内容をまとめ、次年度の早期施行を図る。
5、保険制度の広報と加入の促進	4月	内部	* 期初に案内パンフレットを作成しPRできた。
6、事務処理のシステム化を促進	通年	内部	* IT委員会と協調して継続推進を図る。
7、各種表彰者の推薦	6月 10月 10月 11月	第1回評議員会場 初光' ッ祝勝会場 政府 外部	1) 定期表彰は特別功労賞1名、功労賞5名、有功記章1名の表彰を挙行。 2) 随時表彰としてオリンピック銅賞受賞関係者5名の表彰を実施。 3) 外部表彰では、オリンピック関係の4名を政府顕彰として申請し受賞した。 4) 第54回日本ｽｰｯ賞に初光' ッ選手を推薦し競技別団体優秀賞に選ばれた。

## <備考:反省点等>

JSAFの組織運営に必要な基礎的で基本的な規程、規約の整備はほぼ整えられ、今後の連盟諸活動の基本指針となる「連盟行動規範」の策定もできた。個別の目標で、他委員会や特別加盟団体及びプロジェクトとの共同事業に於いて継続審議事項となったものが発生している。

## 会計委員会

(委員長：鈴木保夫 副：栗原博)

- 1、健全な財務基盤構築の為、団体負担金、会費の値上げを含めた改善案について検討したが、改善案を纏めるまでには至らなかった。
- 2、予算執行の適正な管理に努めた。

## 国際委員会

(委員長：戸張房子 副：富田稔・鈴木明善)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1. ISAFミッドイヤーミーティング	6月2～6日	サンディエゴ（アメリカ）	穂積、広瀬 両委員が出席。11月に決定する北京オリンピックの艇種選出、新規のウィンドサーフィン艇種などについて討議
2. ISAF総会	11月5～14日	コッペンハーゲン（デンマーク）	穂積、広瀬、富田、戸張、清水、柴沼、大谷 6委員が出席 ISAF会長、副会長の選挙が行われ、ヨハン・ベーターセンが会長に選出。副会長6名も大半は日本が支持を表明していた方が選ばれた。 グループJ代表のカンソルに大谷たかを、中国のリュウ・シャイが任命された。委員としてはEventsに大谷、Racing Rulesに柴沼、Women's及びYouth&Developmentに戸張、Ocean Racing, Oceanic, Special Regulations に富田が選任され、JSAFから推薦した通りとなった。 次期オリンピックの使用艇種が決定。女子シングルのヨーロッパ級からレーザーラジアルに、ウィンドがミストラルからニールブライドRSXに変更となった以外はアネと同じ。 各委員会の報告は別途提出済み。（JSAFホームページ参照） アネオリンピックに向けて、海外の情報をより正確・迅速にアネ特別委員会競技力向上委員会に渡すことができた。ゴールドプラン達成に協力する体制が確立した。 日本オリンピック委員会が04年からNF国際担当者会議を開催。戸張、寺島、競技力向上委員会から青山の3名が出席。どの競技団体でも世界的な大会で好成績をあげるには国際委員会の協力が必要であることを再認識した。 アジアにおけるMNAのネットワーク作りをシガポールが中心になって行い、地域的なセリングスポーツ発展に日本も積極的に寄与することを確認。 大谷委員がアネに続きアネもオリンピックのジュリーに選出された。 ISAF会長選挙の運動で、ISAF副会長2名がそれぞれ訪日し、山崎会長・河野副会長他との面談など受け入れとアネドをすると共に日本からISAFへの要望などを説明した。 ISAF副会長候補者の内、2名（シガポールのテオ・ビン・ロウ氏、オーストラリアのデビッド・クレット氏）の支持表明を出して2名ともに当選。それぞれから非常に感謝された。 Zoomミーティングの普及キャンペーンで日本に1艇贈呈されることになり、競技力向上委員会と協力してその受け入れを行った。
3. その他			

## 広報委員会

(委員長：大山俊哉 副：浪川宏・柳澤康信・池垣真里)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1. 機関誌 J - SAILING の発行	年間	全国	J - SAILING を年8回（16ページ）発行した。
2. JSAFホームページの運営・拡充	年間	全国	JSAFホームページを運営し、広報や各種情報の伝達を拡充した。
3. アテネオリンピック広報活動	6月～10月	全国・東京	アテネオリンピックの事前広報、期間中の広報、報道機関対応を行った。 6月にアテネオリンピック社行会、10月に470祝賀会を行った。
4. 埼玉国体広報活動	10月	埼玉	埼玉国体にて、報道部として広報活動に従事した。
5. 報道機関対応	年間	全国	年間を通じ、報道機関の対応を行った。
6. JSAFスポーツマガジムの作成	1月	全国	05年度以降の「JSAFスポーツマガジン」の原案を作成した。

## 事業開発委員会

(委員長：平賀威 副：桑原啓三・山口英一)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1. 委託販売制度の確立	年間を通して		各団体、水域のクラブ等への委託販売についてはごく一部の団体にとどまっている。 業者への委託の体制が確立されていない。
2. 直販	年間を通して	現地	さいたま国体、葉山ニッポンカップ、JSAF新年会、関東ヨットマンズクラブパーティアテネオリンピック選手壮行会および祝勝会、江ノ島OP全日本等の会場での販売はほぼ計画通り実行できた。 主な販売実績：さいたま国体（670千円）、関東YC（127千円）、アテネ壮行会（420千円）、アテネ祝勝会（147千円）
3. JSAFロゴ入り商品の開発	年間を通して		ポロシャツ、T-シャツ、キャップ、バンダナ、携帯ストラップ、サングラスなどは実行できた。 超軽量防水ジャンパーおよびパンツ、タオル、記念品、賞品については実行

4.ロイヤリティビジネスの検討 5.J-セーリングとのジョイントによるグッズの販売 6.イベントの企画、開催 7.2005年版カレンダーの製作	年間を通して 年間を通して	現地 舵社	できなかった。 検討はしているが、実績をあげるに至っていない。 事業開発委員会の活動内容をJ-セーリングで紹介するに留まっている。 来年度の課題にしたい。
8.在庫の減額	年間を通して		出来ていない 1800部製作し各団体に販売を委託したが、約350部売れ残った。来年度の課題としたい。 長期滞留商品について600千円の減額が出来た。 エンサイン大小、アタッシュケース、パーズ等がまだ在庫を圧迫している。
<b>&lt;備考：反省点等&gt;</b>			
収支報告			
(収入)		(支出)	
カレンダー収入	1,467千円	カレンダー製作費	1,512千円
グッズの販売	4,265千円	グッズの仕入	3,495千円
その他	13千円	旅費交通費	20千円
		雑費	56千円
合計	5,745千円	合計	5,083千円
差引収支			662千円

## 競技事業（ルーチン業務）

（組織図にはこの名称は無い、分類のための仮名）

### ルール委員会

（委員長：川北 達也

副：大村 雅一）

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1.ルールブック日本語版の発行支援	都度	-	・RRS(2005 2008)邦訳版発行（3月） ・RRS42に対する新Interpretations邦訳版発行。（3月） ・ISAF 規定2005年版の邦訳暫定版作成（3月） （広告/資格/アンチドーピング/セーラー分類）
2.ルール関連文書日本語版の発行	都度	-	・ISAF Callbook (Match Race / Team Race)の邦訳版作成。 ・InterNational Judge Manual 2005年版の邦訳版作成。 ・InterNational Unpire Manual 2005年版の邦訳版作成。
3.IJ/IU候補者の育成と選定(推薦)	12月/2月 <17年/4月> 3月 6月	ソウル/サザンブトン 佐島 サザンブトン 東京	・I S A F・I Jセミナー受験のため、韓国・イングランドにI J候補者を派遣し、1名が試験に合格した。候補者には海外経験や国内主要大会の優先的採用する仕組みを検討する必要がある。 ・I S A F・I Uセミナー準備。<都合で平成17年度にスケジュール変更> ・I S A Fからの情報収集の為、I Uカンファレンスに委員を派遣した。 ・平成15年度はI J / I U推薦申請が2件あり、その審査をする事でナショナルオーソリティーとしての義務を履行した。締切期限に関する規定表現に不明瞭な部分があることが発見され、規定の一部見直しを次年度推薦受付までに改定する。
4.ナショナルアンパイア認定講習会実施	7月26～28日	兵庫県西ノ宮	・IUによる2日間の講習を行い、4名が受験し、2名がナショナルアンパイアとして認定された。
5.A級ジャッジ認定講習会実施	2月3月	全国13箇所 札幌/仙台/東京/ 名古屋/金沢/京都/ 西ノ宮/岡山広島/ 愛媛/福岡/沖縄	・1日間の講習を行い、全国で約300名が受講した。講習では、確認テストが行われ、具体的なケースでのルール解釈の統一と各自の実力チェックが出来た。旧ルールでの解釈のバラツキが認められ、更新時でない年にもセミナーは必要であることが確認された。
6.国内主要大会ケース収集と展開	通年	-	・国体ケース集を作成した。 ・主要大会のレガッタレポートを収集。ルール代表者とのコミュニケーションを強化して、展開する大会を増加していきたい。
7.ルール委員会史発行	4月	-	・ルール委員OBによるJYA/NORC時代からのルール関連記録の整理を行い、発行した。
8.JSAFオフィシャルWebへ情報展開	通年	-	・公示(講習会開催、ジャッジアンパイア認定、ルール/規程変更通知)や連絡事項、プロテスト委員会で使用する標準フォームなどを都度掲載。 会員サービスを強化する目的で問合せに関する展開や各団体でのジャッジ活動など掲載領域を拡大していきたい。
9.NJ/NUメンバー管理	通年	-	A級/B級ジャッジ、ナショナルアンパイアの更新手続実施中。
10.会員への情報展開の仕組み作り	通年	-	会員への「タイムリーなルール関連情報の提供と認知」を目的に各団体のルール代表者の更新依頼を行ない、115団体中80団体からの登録がされた。まだ艇種別協会の登録が少なく、現場での関係強化が必要。情報展開内容を明確にして継続したい。

### レース統括委員会

（委員長：名方俊介

副：市原恭夫・大原博実）

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1.「JSAFレースオフィサー規程」の改定			制度制定後初めてのIJA・レースオフィサー更新年度にあたり、更新事務・経費および改正ルール講習会受講義務等を考慮して、レースオフィサーの有効期限を次回ルール改正年までとするよう規定を改定した。この改定に伴い、全有資格者に対する更新講習会として、受講者の有効期限を2009年3月とした。

2.セリング 装備規則の翻訳、発行			セリング 装備規則2005-2008を翻訳、挿入図の入手・翻訳し、ルール委員会が翻訳・発行作業を行ったセリング 競技規則2005-2008とともに発行した。
3.レスオィサー更新講習会の開催	平成17年 2月～3月	全国9水域 北陸、沖縄	札幌、仙台、東京、名古屋、京都、西宮、広島、徳島、福岡の9地区に加え、石川、山形、沖縄にてR0更新講習会を開催した。
4.レス・マネジ ムント・セナー（併、レスオィサー更新講習会）の開催	平成17年3月	岡山市	岡山市において、本年開催予定の国体レス運営スタッフを加えたレス・マネジ ムント・セナーを兼ねた更新講習会として開催した。 上記の結果、NRO19名、AR0131名、CRO65名の資格更新が未了であるが、今後県連単位で実施されるB級ジ ャッジ 更新講習会を利用して、R0の更新を完了する予定である。
5.レスオィサー・トレーニング・キット（レベル2）の充実			静岡国体、および埼玉国体におけるレス運営から視覚素材を採得し、NRO認定講習会における教材として用いるレスオィサー・トレーニング・キット（レベル2）を充実させた。
6.Ro連絡網の整備			レス・オィサー連絡網を完成させた。今後、レス運営に関する情報を適時に発信し、全国のレス運営の平準化と知識向上の一助として活用する。
7.危機管理マニュアル、安全対策リストの作成と公表			「管理水面における安全対策リスト作成に対する提案」、および「大会時、および練習時の危機管理マニュアルに関する提案（テ ィンギ 系）」を作成し、HPに公開した。
8.成績計算ソフトの作成			成績表作成ソフトを完成させた。次年度よりHPに公開し、各団体に無料提供することとしている。
9.YN(2004年度版)の発行			昨年に続き、ヤードスティック・ナンバーの改訂版（2004年版）を公表した。
10.その他			埼玉国体、ユースチャンピオンシップ、リトル ック・ウィーク、全日本チームレース等の支援を行った。

<備考：反省点等>

平成16年4月1日より全日本選手権大会等にはレスオィサー設置義務が発行している。今後、外洋系レスオィサー特別講習会の早期実施を図るとともに、レスオィサー制度の維持管理、競技大会へのR0起用システム、レス・マネジ ムントの標準化などについて、その具体的方策を実行する時期にあると考える。

競技力向上委員会

（委員長：山田敏雄

副：松山・今井・斉藤・青山・菊池）

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1.ジュニア・ユース競技力向上事業 ア.海外派遣事業 ・世界大学選手権派遣	7月2日～9日	トルコイズミール	Laser 小澤 真純 5位（7艇中） 吉田 侑司 6位（7艇中） Laser R 濱口 睦美 2位（4艇中） 470（男子） 坂口 英章 4位（7艇中） 今村 公彦 Mistral（男子） 富澤 慎 2位（8艇中） 梅田 智一 6位（8艇中） Mistral（女子） 野津 千尋 4位（6艇中） 森 裕美 6位（6艇中）
・ワールドユース選手権派遣	7月8日～17日	ホ ーランド・グティニア	Laser 田口 西 25位（41艇中） Laser R 川副 温子 16位（32艇中） 420（男子） 村山 航 12位（32艇中） 高田 健太郎 420（女子） 佐々木 優美 17位（28艇中） 松尾 綾
イ.国内強化事業 ・2004年ワールドユース派遣候補選手強化合宿兼選考会 ・2005年ユースナショナルチームの認定 ・ユースショナルチーム強化合宿	5月1日～5日 3月9日～13日	佐賀県唐津 佐賀県唐津	2004年9月開催JOCジュニアオリンピックカップおよび競技力向上委員会、艇種別協会の推薦で54名を認定 海外コーチを招聘し、ショナルチーム36名が参加、toto助成事業として実施 基本、特にホ ーランド リング と体力作りに主眼をおいた合宿
・ジュニアオリンピックカップの開催 ・オリンピックウィークの開催	9月17日～21日	神奈川県江ノ島	ジュニアからトップアスリートまでが一同に会する大会として開催

<備考：反省点等>

- ・海外遠征において強風域で走れる選手の育成
- ・ナショナルチーム選定における各水域推薦制度の構築

## 指導者委員会

(委員長：棚橋善克 副：小山泰彦・斉藤威)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
バッジテストの実施 バッジテストのありかた検討	通年 9-1月	全国(加盟団体) 東京	認定実績 71団体 1,217人 バッジテストの改良にむけ、検討を行った。次年度は、各水域から委員をつのり、検討を加速させる。
安全・救助ビデオの立案	7-10月	東京	観天望気、沈起し、救助法など、ディンギーセイラーおよび指導者のための安全・救助ビデオを立案した。次年度は、実際の撮影、販売を企画する。
C級スポーツ指導員の養成 C級コーチの養成 B級コーチの養成 教育機関における指導員の養成 アシスタント指導員の認定	通年 2月、3月 2月、3月 通年 通年	石川県、兵庫県 千葉市、唐津市 千葉市、唐津市 広島 広島	石川県23人、兵庫県21人受講 共通科目受講者3人、専門科目受講者11人 専門科目受講者5人 日本海技専門学校10人 日本海技専門学校10人 指導者の養成、認定については、新制度のもとで新たな指導者の育成を行っていききたい。
指導者全国会議	11/13、14	東京都夢の島マリーナ	35都道府県、2外洋、10団体 75人 参加者の意見を最大限生かせるよう、パネル形式のセッションも設けた。
講習会講師研修会	2/26、27	神奈川県江ノ島	次年度は、さらにこの形式を発展させる。 指導者マニュアルの検討25人 指導者育成のテキストともなるマニュアルの骨子がまとまった。
<p>&lt;備考:反省点等&gt;                      バッジテストについては、学科問題、実技試験の内容を再検討して行きたい。                      安全・救助のビデオや指導者マニュアルを作成し、講習会を開催するなど指導者の育成に努めていきたい。                      新たな制度のもとで、公認指導員の養成と認定を進めていきたい。</p>			

## レディース委員会

(委員長：倭千鶴子 副：長田美香子・松原宏之)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
エンジョイセーリングデイ	平成16年 7月30日 ~8月1日	神奈川県葉山マリーナ 及び葉山マリーナ沖	新聞などの広報により大勢の参加者あり大変意義のあるイベントでした。 詳細については別紙のとおりです。
チャイルドルーム	10月23日 ~26日	埼玉県北川辺町 渡良瀬遊水地	設置場所の立地条件が最適のため大勢の子供の来訪あり
第1回女性スポーツネットワーク会議	11月	熊本	2006年に開催される世界女性スポーツ会議のプレ会議 九州福岡県在住レディース委員を派遣いたしました。
女性スポーツサミット2005	平成17年 1月23日	東京	レディース委員会副委員長派遣

## 医事・科学委員会

(委員長：上原一之 副：栗原茂勝 米山博巳)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
救護	5月3-5日 7月30日~31日	山中湖 御前崎	
公認C級コーチ講習会講師派遣	3月13日	唐津	3名派遣
ドーピング検査検査員派遣	3月6日	和歌山	5名(競技外検査)
	3月17日	横須賀	4名(競技外検査)
	3月21日	横須賀	3名(競技外検査)

## 特別委員会

### オリンピック特別委員会

(委員長：山崎達光 副：河野博文・小松一憲)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
ミストラル級世界選手権大会	4月8日~18日	トルコ・チェシュメ	アテネオリンピック日本代表選考レースを兼ねた大会であり男子6名、女子3名が参加し、見城 元一選手及び今井 雅子選手が日本代表に選考された。
49er級世界選手権大会	4月12日~20日	ギリシャ・アテネ	アテネオリンピック日本代表選考レースを兼ねた大会であり3チームが参加し、中村 健次、高木 正人組が日本代表に選考された。
オリンピックレガッタ	4月22日~30日	フランス・イエール	オリンピック国別出場枠が掛かった大会にヨーロッパ級女子2名が参加し、佐藤 麻衣子選手が出場枠残り5カ国中4位で国別出場枠を獲得し、アテネオリンピック日本代表に選考された。
470級世界選手権大会	5月4日~16日	クロアチア・ザダー	アテネオリンピック日本代表選考レースを兼ねた大会であり男子6チーム、女子5チームが参加し、男子は関 一人、轟 賢二郎組、女子は吉迫 由香、佐竹 美都子組が日本代表に選考された。
レーザー級世界選手権大会	5月10日~19日	トルコ・ピティエツ	アテネオリンピック日本代表選考レースを兼ねた大会であり3名が参加し、鈴木 國央選手が日本代表に選考された。
オリンピック事前合宿(1)	6月14日~29日	ドイツ・キール	470級男子、レーザー級、ヨーロッパ級及び49er級の日本代表選手がオリンピック直前の大会に調整を兼ねて参加した。結果は夫々9位、33位、13位、21位であったが、各国の代表選手とレースをすることにより課題が明確になった。

オリンピック事前練習(2)	7月12日～31日	ギリシャ・アテネ	470級女子、ミストラル級男子、女子がオリンピック直前の本番の海面で練習し、風、潮などを把握した。又、他国代表選手とも走り比べをして課題が明確になった。
第28回オリンピック競技大会	8月13日～29日	ギリシャ・アテネ	470級男子が悲願のメダルを獲得し「アテネの海に日の丸を」の公約が果たせことは今後のヨット界にとって意義は大きい。その他クラスの成績は11位(470級女子)、19位(ミストラル級男子)、17位(同女子)、35位(レーザー級)、24位(ヨーロッパ級)、15位(49er級)であり470級以外の世界の壁は厚い。
ナショナルチーム選考レース	3月2日～6日	和歌山県・マリナーシティ	470級男子、女子及びレーザー級の2005年ナショナルチームを選考した。連日良い風に恵まれ選考レースに相応しい大会であった。参加した選手の一部にドーピング検査を実施したが、陽性はなかった。
トータルスポーツクリニック強化合宿	2月14日・15日 3月22日・23日 3月28日・29日	東京・国立スポーツ科学センター	2005年度ナショナルチーム選手36名を対象に国立スポーツ科学センターにてフィットネス、メディカルチェックの合宿を実施、合わせて個別トレーニングメニューの作成を行う

<備考・反省点等>

悲願であった470級男子(関・轟組)がオリンピックで銅メダルを獲得したが470級以外の世界の壁は厚い。特にシングルハンド系は北京へ向けての次世代優秀選手の発掘・育成を競技力向上委員会と連携して行うことが必要である。

## アメリカ杯委員会 (委員長：山崎達光)

2007年にスペイン・バレンシアにおいて行われる次回アメリカズカップへの防衛チーム・挑戦チームの動向を見守り、2011年大会挑戦の可能性を検討。

## 国体委員会 (委員長：昇隆夫 副：森信和)

事業内容	時期	場所	成果の概要(次年度への反映事項を含む)
1. 第59回国民体育大会埼玉国体を開催	10月23日～26日	埼玉県北河辺町渡良瀬遊水池	・成年男子全種目、成年女子ウインドサーフィン級、SR級、少年男女全種目3レース実施 成年女子SS級2レース実施 天皇杯：神奈川県 皇后杯：岡山県
2. 岡山国体リハーサル大会	3月19日～21日	埼玉県牛窓YH	・西日本スプリングレガッタ開催で2海面の運営練習を実施
3. 埼玉県、岡山県、兵庫県の国体開催予定地の準備支援を実施		埼玉県北河辺町渡良瀬遊水池 岡山県牛窓YH 兵庫県新西宮YH	・競技運営方法及び運営施設等の協議 ・レース海面の設置場所等について協議 ・競技運営棟及び配置計画について協議
4. 第65回千葉国体(平成22年)開催地内定に係る中央競技団体正規視察の実施	11月18日	千葉県千葉市	・開催地内定に伴う千葉県、千葉市、地元県連との協議及び現地調査
・平成24年第7回岐阜国体の事前視察	1月31日	三重県河芸町	・岐阜マリンスポーツセンター：現会場地では国体を開催するには不適地
5. セーリングスピリッツ級の普及活動の実施			
(1) 大会の開催			
・第5回全日本セーリングスピリッツ級大会開催	10月2日～3日	兵庫県新西宮YH	・SS級の普及を図ることから各水域にてレースを開催
・海陽SS選手権大会	5月1日～3日	愛知県海陽YH	
・海陽セーリングカップ	7月24日～25日	愛知県海陽YH	
・SS級関西選手権	7月31日～8月1日	兵庫県新西宮YH	
・SS級四国選手権	9月19日	愛媛県松江市	
(2) アンケート調査の実施			・各県連にSS級の国体導入時期についてアンケートを実施 結果：回答率96% 36県少年男女導入を賛成
6. 国体種目(艇種)について日体協と協議		日本体育協会	・平成17年岡山国体から成年女子はSS級のみ艇種 ・平成18年兵庫国体少年男女へSS級の導入について日体協と協議を行う
7. 国体セーリング競技研修会の開催	1月28日～29日	東京都夢の島	・埼玉県、岡山県、兵庫県、秋田県、大分県、新潟県、千葉県の行政関係者及び各県連と国体開催に向けた研修会を実施

8・国体ウインドサーフィン級、 SS級の年度登録管理		・年度登録証の発行及び管理
9・国体参加資格の審査		・第59回埼玉国体の選手・監督の参加資格について審査を実施

<備考:反省点等>

- ・国体セーリング競技研修会は平成15年度から開催し3回目ですが、関係行政団体並びに各県連には成果が多いにあり有効な会議である。
- ・SS級の少年男女への導入については日体協と綿密な協議を進め各県連へ周知を図る。(アンケートの実施、評議員会報告、高体連関係者と協議)
- ・国体改革についてはセーリング競技の運営を含め今後検討を進める。

**環境問題担当** (委員長: 荒居達雄 副: 岡田達雄)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 委員会	7月~3月まで 8回 会議	アリカ	キャンペーンスローガン, エコフラッグ等を決める。
2. JOC第1回スポーツと 環境担当者会議	H16.11.19	国立スポーツ科学センター	岡田副委員長がJSAFの帆走指示書に環境大作を明文化すると発表

**会長特命チーム**

**普及委員会** (委員長: 水谷益彦 副: 稲葉文則・清水昭・棚橋善克)

<水域活性化・障害者他>

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 日本財団助成事業を全国加盟団体に委嘱することによりセーリングの普及を図る。 (1) ファミリーレース	6月12, 13日 7月18, 19日 7月24, 25日 7月31, 8月1日 7月31, 8月1日 8月14, 15日 8月14, 15日 9月11, 12日 9月18, 19日	千葉県稲毛 宮城県名取 福岡県小戸 北海道函館 三重県津 青森県合浦 愛知県海陽 和歌山県和歌浦 滋賀県柳ヶ崎	昨年理事会へ報告済みであるが、報告書別紙
(2) ジュニアセーリング体験	7月24, 25日 8月7, 8日 10月16, 17日	千葉県稲毛 長崎県長与 兵庫県西宮	
(3) レディスセーリング体験	7月31, 8月1日	神奈川県葉山	レディス委員会より詳細報告
(4) 障害者セーリング体験	6月12, 13日 7月18, 19日	大分県別府 北海道石狩	
(5) 教職員指導者セーリング講習会	7月3, 4日 8月4, 5日 10月2, 3日	山形県酒田市 佐賀県唐津 岡山県牛窓	
(6) 安全講習会		東京都夢の島	指導者委員会より報告
2. 障害者ヨットの普及 (1) 日本財団助成事業に新たに障害者セーリング体験を加え普及を図る	6月12, 13日 7月18, 19日	大分県別府 北海道石狩	1箇所予定が2箇所に増加内容的にも十分な成果を得た
(2) 各地の障害者エイドのネット化			実施にいたらず
3. クルザーグループを中心とした15年度計画の継続			実施できず
4. 愛地球博、国際セーリングシリーズのPR			地元愛知県及び、推進協議会任せに終わった  日本財団助成事業の実施計画書の提出をはやめることにより内定、決定を早くし事業の円滑な遂行を計る 事業計画書の書式を改正、 その他は、委員も決まっておらず、予算も無く、東京圏に居住していないため、計画を実施できなかった。

## 関係組織協力委員会

(委員長：大庭秀夫 副：児玉萬平)

<学連・高体連・ジュニア他>

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
加盟団体の補助金システムの話し合い	通年		レース委員会と連携し、主に国民体育大会や各クラスの大会の時に状況を説明し理解を求めた。
会員増強の検討	通年		会員増強委員会と連携し、各会員に魅力あるJSAFのあり方などを中心に理解を求めた。
高体連やウインドサーフィンその他の協会の及びクラブとの打ち合わせ	通年		主に埼玉国体の時期にあわせて打ち合わせを行った。高体連においては水域の予選会やインターハイにおいて、その他のクラスやクラブにおいても、機会があるときに懇談した。
ゴールドプランの理解と周知	通年		年間を通してゴールドプランのシステムや考え方を理解してもらった。特に、オリンピックウィークでは、はじめてOPクラスからオリンピッククラスまでを1つの大会として開催した。
<b>&lt;備考:反省点等&gt;</b>			
補助金がまったく無くなってしまふ事は、JSAF組織が根本的に崩れてしまうので、予算が少なくても、補助金に変わるシステムを考えるかシステムを復活させなければならない。オリンピックウィークのOPからオリンピックすべてのクラスの同時開催を実施するためには、かなり大きな組織が必要でJSAF1委員会では無理である。			

## IT委員会

(委員長：前田彰一 副：鈴木保夫)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
第10回 IT委員会	2004年 4月1日	JSAF事務所	第1回 見積(システム開発) 比較検討
Web サンプル掲載検討	4月8日		メンバー登録申込みフォーム検討 (艇登録の検討)
第11回 IT委員会	6月7日	JSAF事務所	第2回 見積(システム運用) 比較検討
Web サンプル掲載	6月8日		加盟団体へメンバー登録サンプル Web掲載お知らせ
第12回 IT委員会	6月23日	JSAF事務所	第3回見積依頼 スペック検討 (システム専門家参加)
見積業者との面談	6月23日	JSAF事務所	見積業者3社との個別面談 (システム専門家参加)
第13回 IT委員会	8月19日	JSAF事務所	第3回/第4回見積 比較検討 最終結論
理事会で見積結果報告	9月4日	理事会(夢の島)	常任委員会および理事会へ見積結果を報告
システム開発を発注	9月16日		(株)情報環境デザインへの発注
第14回 IT委員会	12月13日	JSAF事務所	セキュリティおよびシステム詳細の決定(広報Web参加)
加盟団体にデモ検討依頼	12月27日		加盟団体へデモ・システムの検討依頼
第15回 IT委員会	2005年 1月13日	JSAF事務所	加盟団体からシステム詳細の質疑応答 (内部検討)
総務委員長との打合せ	1月22日	理事会(有楽町)	メンバー登録システムおよび手続の決定
第16回 IT委員会	2月2日	JSAF事務所	加盟団体からシステム詳細の質疑応答 (メール対応)
システム開発の最終確認	2月14日	JSAF事務所	メンバー登録システムおよび手続の最終確認
第17回 IT委員会	2月24日	JSAF事務所	メンバー登録手続およびカード発行の確認
第18回 IT委員会	3月17日	JSAF事務所	加盟団体からシステム詳細の質疑応答 (メール対応)
全国代表者会議で説明	3月26日	岸記念体育館講堂	加盟団体からシステム詳細の質疑応答
<b>&lt;備考:反省点等&gt;</b>			
(1) できるだけコストのかからぬ最小限のシステム開発を前提に見積をとった。見積先4社のうち3社が対応、第1回(開発)/第2回(運用)さらに情報システム専門家の支援を得て業者と個別面談、詳細を詰めて第3回/第4回見積をとり、最終的に発注先を決定した。			
(2) 理事会および評議員会で逐次IT委員会として報告を行ってきた。なかなか具体的なイメージがつかめないとの意見もあり、広報委員会Web担当の協力を得てサンプル画面を表示した。また、総務委員会と打合せ、メンバー登録の詳細(会員番号やカード)を決定した。			
(3) 12月末に各加盟団体にメンバー管理・登録システムのデモサイトの検討を依頼、数団体からのコメントをシステム開発に反映させた。今回メンバー登録のほか艇登録システムの開発も行ったが、運用の問題もあり艇登録の実用化に関しては今後の検討課題となった。			
(4) 将来のメンバー管理・登録の簡素化とメンバーサービスへの活用を考えたシステム開発である。システム化の取り組みは加盟団体により異なり、まずはできるところから始め、いろいろ意見を聞きながらより良いものにしていきたいと考えている。			

## 会員増強委員会

(委員長：伊藤宏 副：野口隆司)

<b>1. 普及活動の実態調査</b>
一部の県連についてヒアリングを実施した。ヒアリングの結果、各県連とも普及活動の重要性は認識してはいるものの、活動資金の捻出に苦労しており、なかなか思うような活動はできていない。又、普及活動が、会員増強つながらないことも共通した悩みとなっている。さらに、県連以外への団体に会員登録手続きが拡大されたため、還付金も広く薄くばら撒かれるようになってしまい、資金減の一因ともなっている。
<b>2. B &amp; G財団との連携</b>
昨年は福岡で、指導員の講習会を開催したが、17年度は、福岡、名古屋で同講習会を開催することとなった。

# 外洋特別委員会

(委員長：富田稔 副：小田泰義・吉田豊)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
<b>外洋HC・計測小委員会</b> IMSとORCクラブ計測  業務体制の整備	年間  8月～3月		IMS計測業務と証書発行・登録 ORCクラブ 計測業務と証書発行・登録 ORCクラブ計測証書発行制度の再検討を行い、今まで日本固有の3年ごと改定していた証書有効期間を、世界の標準である1年制度に変更した。 計測委員会内部の構成も一新し、ユーザー要求により迅速に答えられる体制とし計測料金もORCレピー変更為替変動に対応できるよう設定した。 外注料金を定額制度から証書発行枚数に応じた従量制度に変更した。 以上の内部規定作成
<b>外洋法規小委員会</b>	年間  7月 3月	国土交通省  JCI会議室	小型船舶操縦免許制度の法律改定に関わる国土交通省の委員会にユーザーを代表して参加し、2級小型船舶操縦士資格制度の法文作成に貢献するとともに、日本セーリング連盟の加盟団体における主催競技の乗船経歴を認めることに貢献した。 国土交通省 携帯電話を利用し、沿海水域の安全通信を確保する為の検討委員会に参加、ユーザーを代表し、料金制度、情報提供の内容を提言した。 小型船舶検査機構との定期会合を開催し、安全備品の規格、国際的課題などについて意見交換を行うとともに、ユーザーとしての要求について申し入れを行った
<b>外洋技術小委員会</b>  JCI懇談会 船舶安全法の航行区域とISO 設計区分の関係評価に関する検討 琵琶湖転覆事故に関する調査研究	11月～3月  年2回（春秋） H14.11～H15.7 計8回 H16.1～H16.3	JCI本部  JCI本部 金澤工業大学	琵琶湖における小型外洋ヨット転覆事故の技術分析を行い、小型艇の復元性に関する、解りやすい、解説書、静的釣り合いをのみならず、タック、ジャイブ時における動的釣り合い（復元性）を多くのヨット愛好者自身が理解できるように解説書を発表した。 外洋法規委員会に協力し、意見具申 同名・調査研究報告書 転覆事故防止キャンペーン原稿「乗りすぎは危険です」 同上・パンフレット作成予定
<b>外洋安全小委員会</b>			外洋艇の安全規定である特別規定の改善に向けてISAFSR委員会に提言を送るとともに変更部分に対し国内徹底に迅速に対応し、ホームページで公開。 近年、安全規則の徹底が（搭載装備の徹底、使用に対するトレーニング）が疎かになってきている傾向があり、証書発行に関する登録、および大会検査の基準を厳しく指導することとした 安全アドバイザー制度の整備と加盟団体所属のアドバイザー認定を行った平成16年度より国内で施行される安全トレーニングの制度へ向けて、カテゴリー1の講習会をオーストラリアからの講師を招聘し30名以上のISAF資格者が得られた。今後JSAF自前のカテゴリー1講習を開催可能にする整備をスタートさせた。 国土交通省の提言する沿海範囲の安全通信情報システムの、システム要件作りにユーザー代表として参加、16年度はモデルハードの作成に向けて、詳細設計に継続参加。
<b>外洋レスネジメント小委員会</b>			ジャパンカップ等ORCレーティングを使用する全日本クラスの選手権に対するレース開催の基準を作成した。 ORCレーティング証書を使用する競技のスコアリングガイド（IMSガイド）を発行した
<b>外洋通信小委員会</b>			NORC時代から保有しているHF 海岸無線局の廃止

## プロジェクトチーム

### 次世代プロジェクト（委員長：小田泰義 副：高橋順一）

次世代に繋げるための資料収集をし検討した。

### 財務委員会（委員長：石橋國雄 副：岩田行史）

アテネオリンピック支援募金完了につき、協賛に対する御礼及び今後のJSAFに対する協力を依頼した。

### 戦略広報担当（委員長：青山篤）

アテネオリンピック・埼玉国体でのセーリング競技が、各種メディア、一般に理解しやすい情報戦略を展開。  
愛知万博における広報をはじめ、環境キャンペーン活動、新しいスポンサー獲得活動に着手。

### 最高審判委員会（事務局長：川北達也）

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1. 上告の審議	3月17日	東京	<ul style="list-style-type: none"><li>・J24/ミッドウィンターレガッタにおけるケースについて、ルールに基づいた上告が行なわれ、受理後審議を行った。</li><li>・本件は、現地審問時の事実認定が不足していたため、再審の指示をし、その後再度当委員会にて審議することとなった。（継続中）</li></ul>

### ド-ピヅグ 裁定委員会（委員長：棚橋善克）

16年度においては裁定案件がなかった。



















